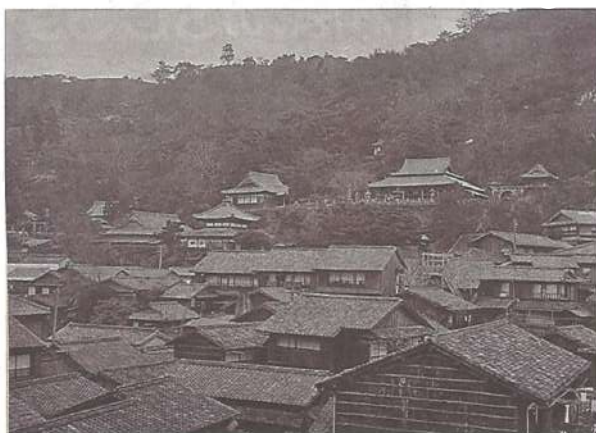


明治30年代の清水寺。写真中央の右寄りの建物が本堂。
眼下では瓦葺きの家が立ち並んでいる



写真に見る

1115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 33 □

明治30年代の清水寺

県内最古の密教寺院本堂

明治30年代、竹下佳治撮影の長崎山真言宗清水寺（八坂町100番地、現鍛冶屋町8の43）と油屋町の家並み。本石灰町にあった竹下写真館側の正覚寺から撮影している。子授け、子育ての「きよみずさん」として知られ、御朱印船の大額「末次船」でも有名である。

明治30年代、竹下佳治撮影の長崎山真言宗清水寺（八坂町100番地、現鍛冶屋町8の43）と油屋町の家並み。本石灰町にあった竹下写真館側の正覚寺から撮影している。子授け、子育ての「きよみずさん」として知られ、御朱印船の大額「末次船」でも有名である。

式の入母屋造、本瓦葺きで屋根の上部と下部に段差を付けた鍛葺きの本堂を新築した。

686）年創建の大師堂。その下がった屋根は聖天堂。重層寄棟式で、文政5（1822）年に有馬氏が建立した後、天保14（1843）年の大火で類焼し、明治初期の台風で大破して重建された。坂本龍馬を助けた油屋町の茶商大浦慶の参拝堂としても知られる。

と絵葉書が残る。トントンの屋根から瓦屋根に変わった油屋町の家並みは長崎の富を象徴している。
（長崎外国語大学長）

元和9（1623）年、キリシタンに対抗する長崎奉行長谷川権六が、京都清水寺の僧慶順を支援して創建された。

創建時の本堂は4年後の寛永4（1627）年に改築され、島原城主松倉重政は堂前に瓦を敷き詰め、石垣に石欄を巡らせ、京都の清水寺の舞台風の庭ができた。寛文8（1668）年に、福建省の帰化唐人何高材・何兆普兄弟が、黄蘗洋山腹の右端は鐘楼堂。創

前庭には文化と享和に建てられた石灯籠と、元治元（1864）年に寄進された唐船のつなぎ石の石碑が見える。ここからの長崎湾の眺めは絶景である。

左端には八坂神社の鳥居が見える。これは明和8（1771）年に諏訪町の梅田文次郎・信昌が寄進した。風光明媚な清水寺は明治以降それぞれの時期の写真

この企画の過去の記事、写真は長崎外国語大のホームページ（http://www.nagasaki-igo.ac.jp/recnas/newspaper/）で見るとご覧いただけます。

山腹の右端は鐘楼堂。創材・何兆普兄弟が、黄蘗洋

本堂の左側は貞享3（1

以降それぞれの時期の写真

風光明媚な清水寺は明治以降それぞれの時期の写真



長崎外国語大のホームページにアクセスできるQRコード

随時掲載します